

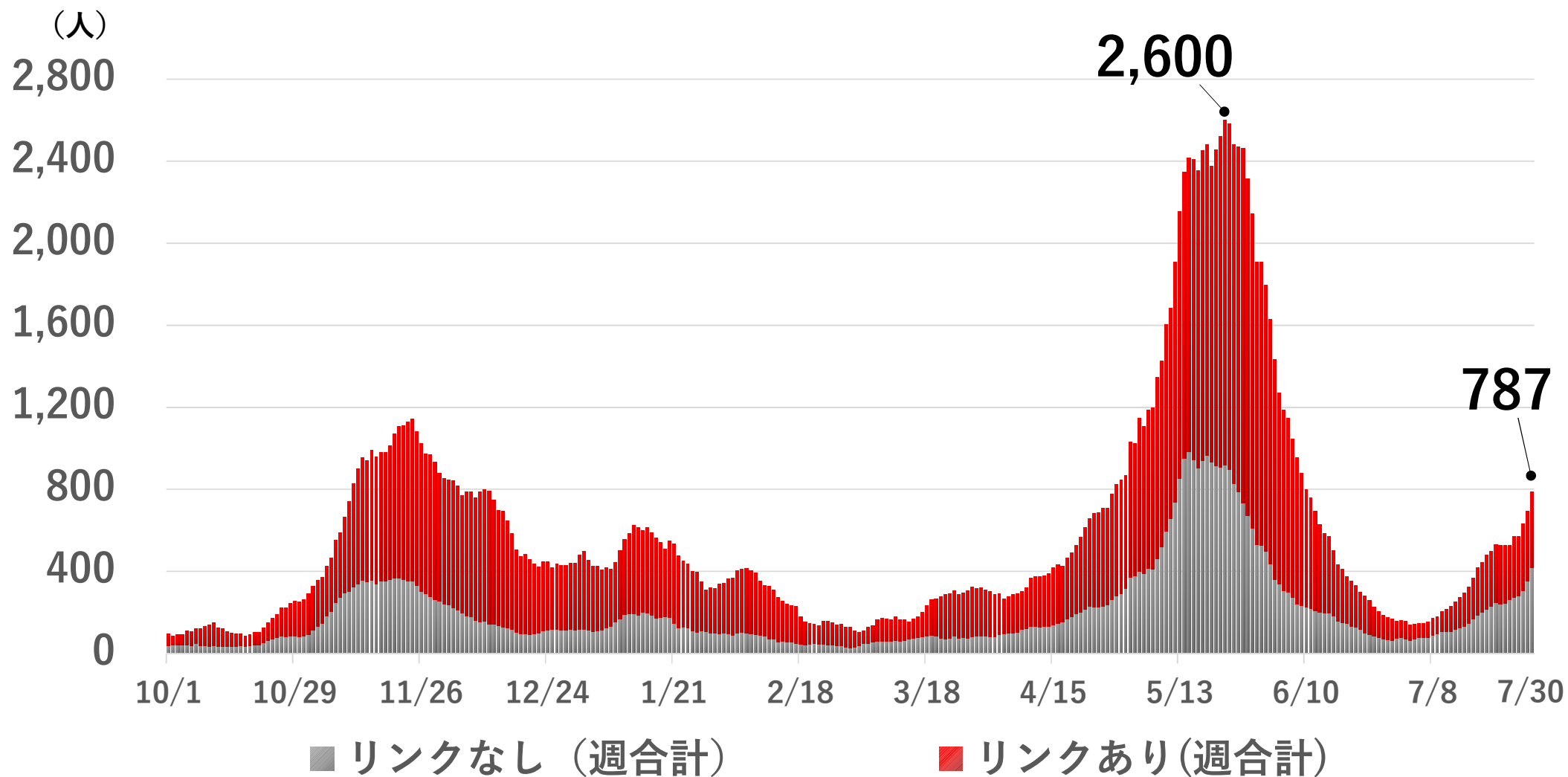
新型コロナウイルス  
感染症対策本部会議

## 札幌市の感染状況について

---

令和3年7月31日  
札幌市保健所

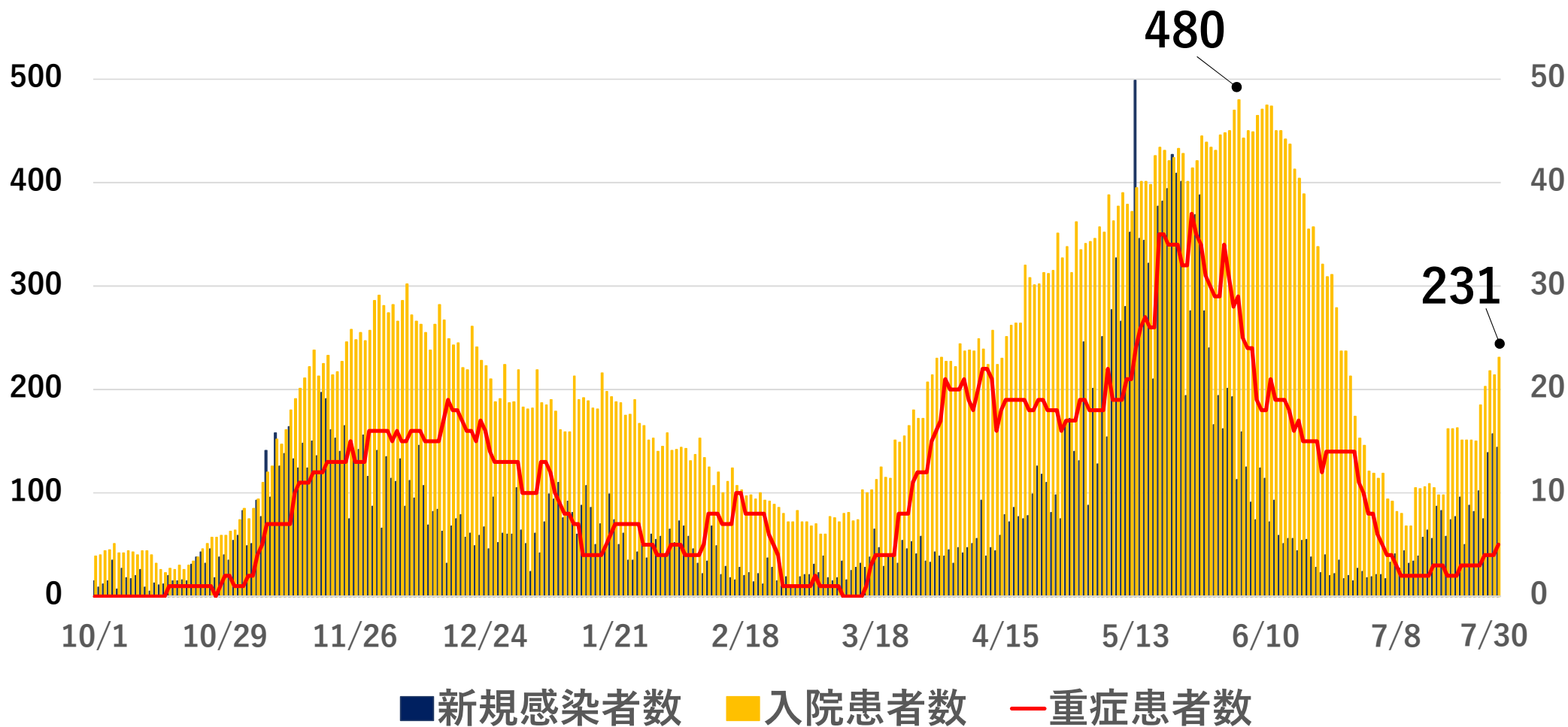
# 市内新規感染者数の推移



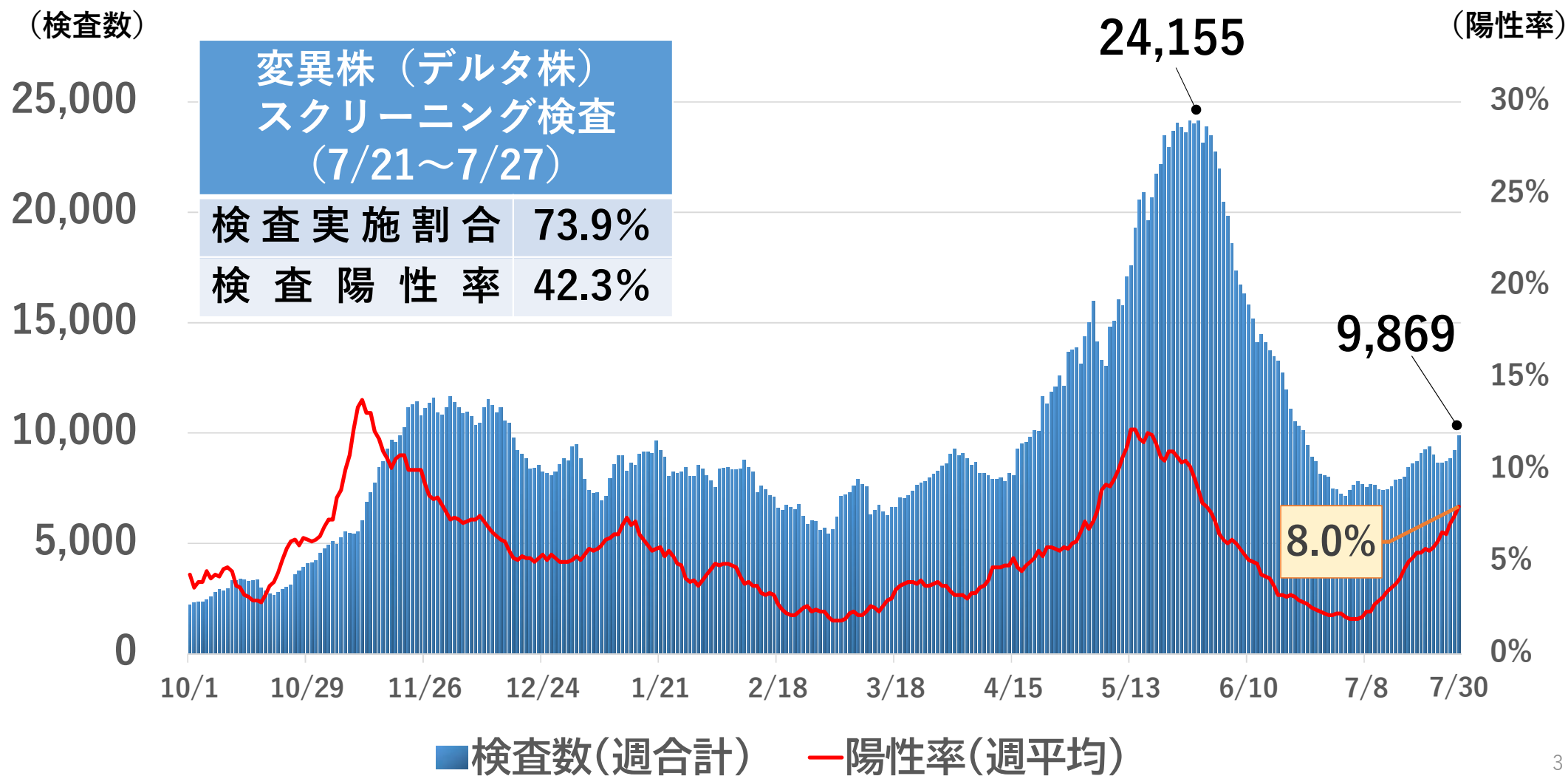
# 札幌市民の感染者数・入院患者数・重症患者数の推移

(新規感染者・入院患者数)

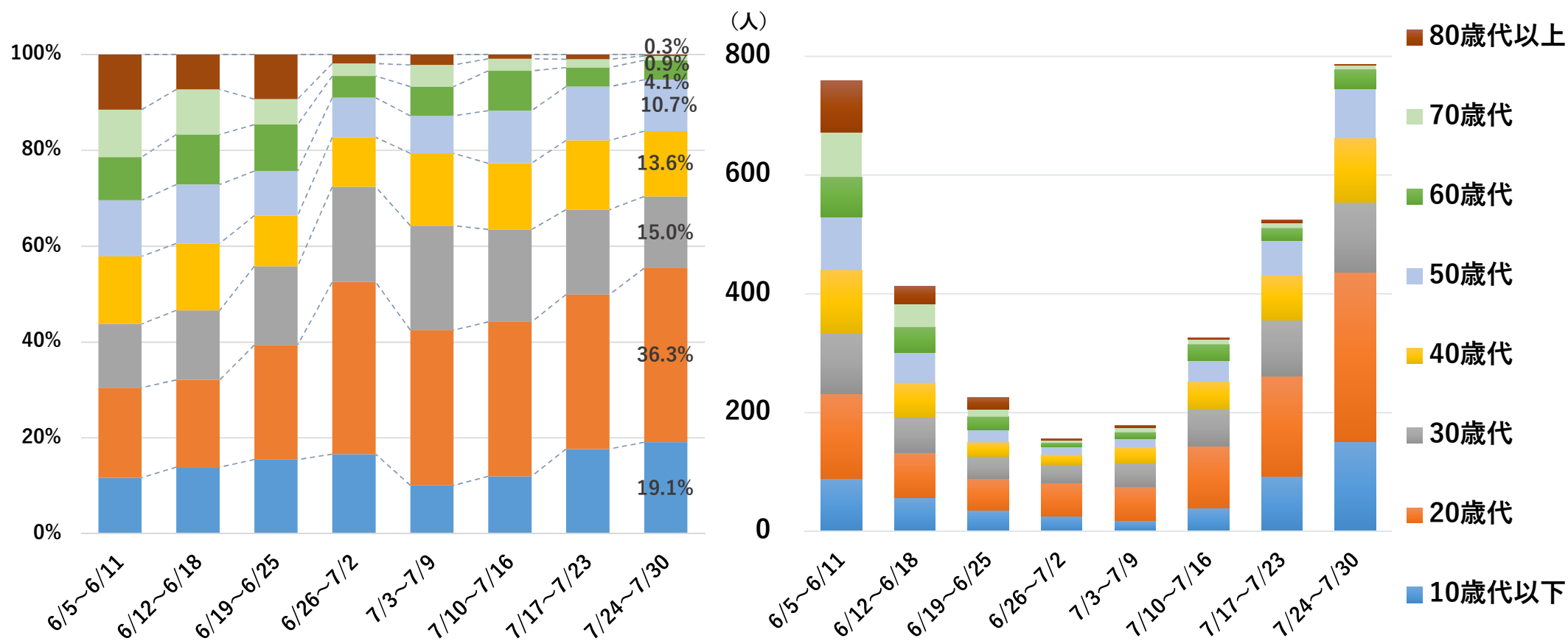
(重症患者数)



# 市内検査数と陽性率の推移

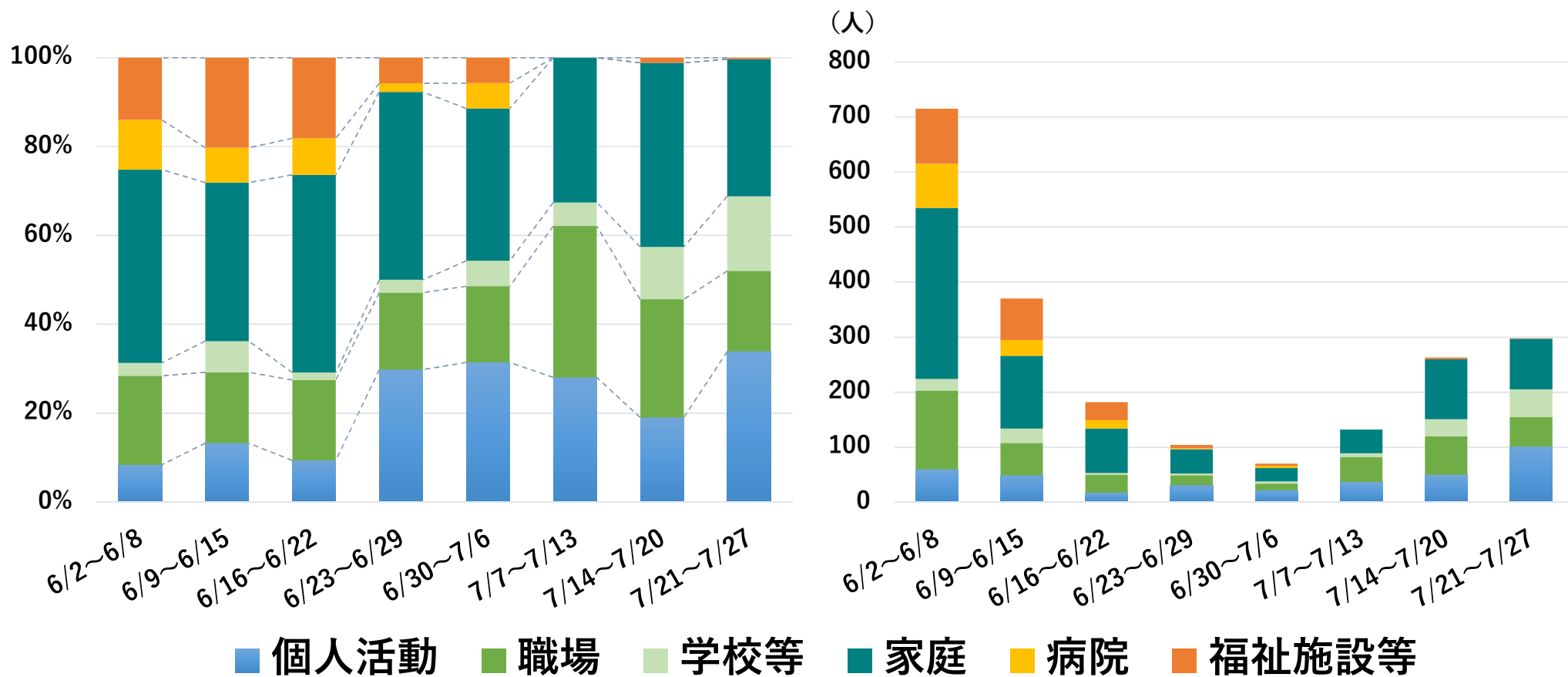


# 市内年齢別感染者数の割合



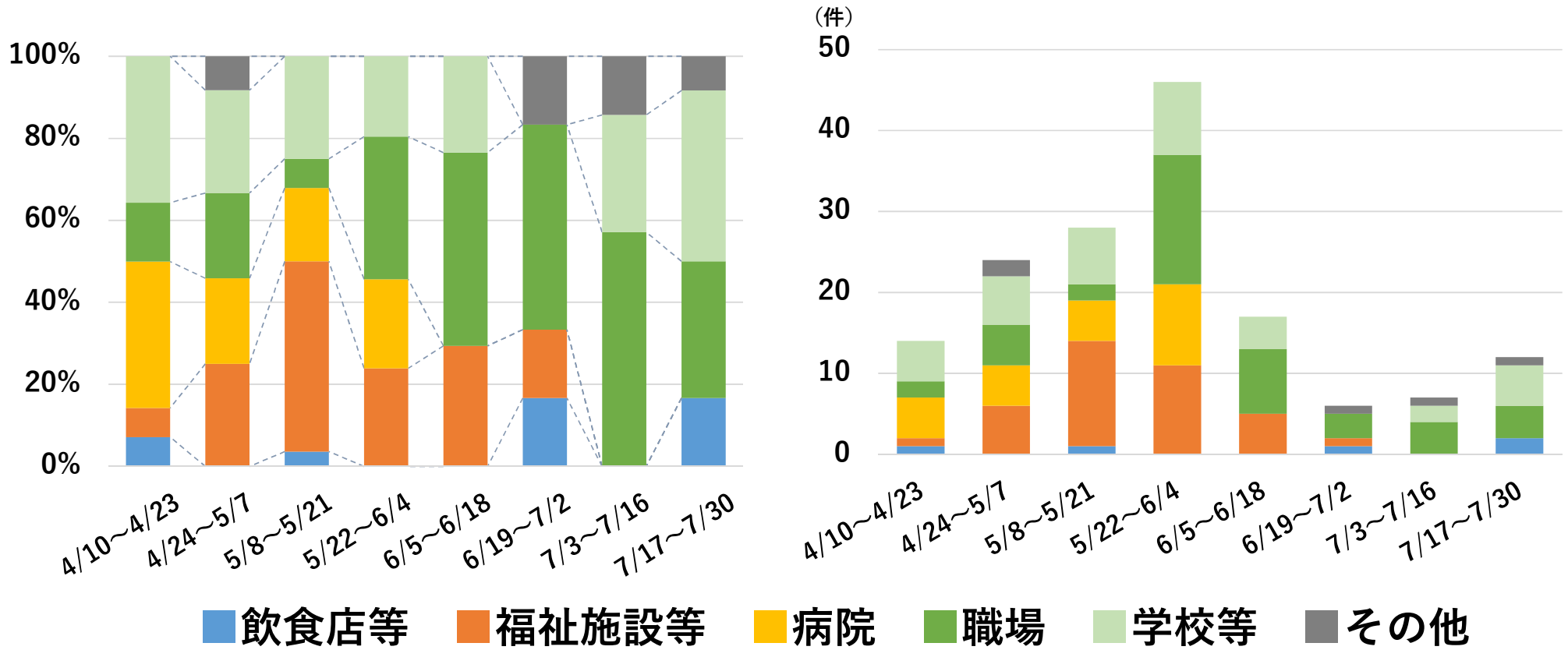
- 20歳代が3割以上を占めるほか、10歳代以下の割合・件数に増加がみられる
- 高齢者の割合に明らかな減少がみられる

# 市内新規感染者（リンクあり）の感染経路



➤ 個人活動や学校等を感染経路とする割合・件数に増加がみられる

# 市内集団感染事例



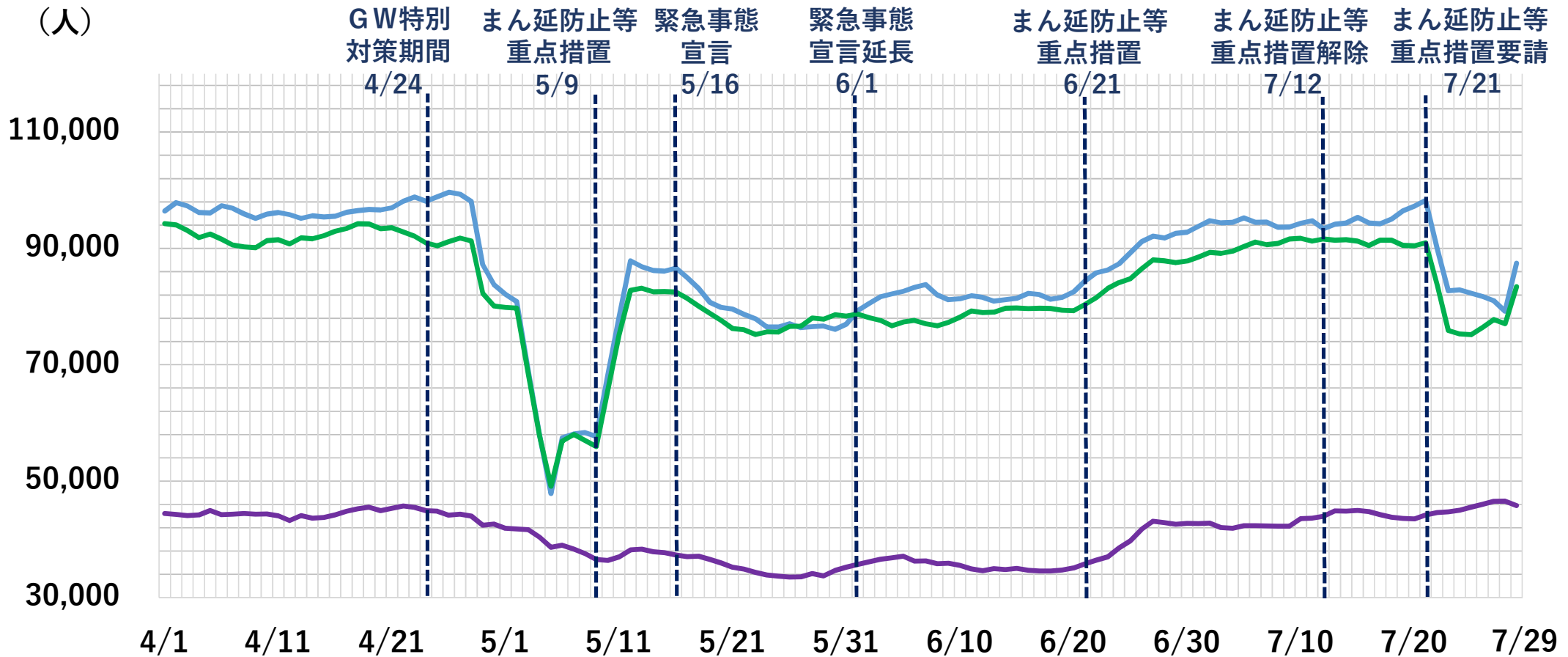
➤ 職場のほか、学校や保育施設での集団感染事例が発生している状況

# 市内中心部の人出（午前9時、7日間平均）

—札幌駅

—大通駅

—すすきの駅



※Agoop社提供データを元に作成

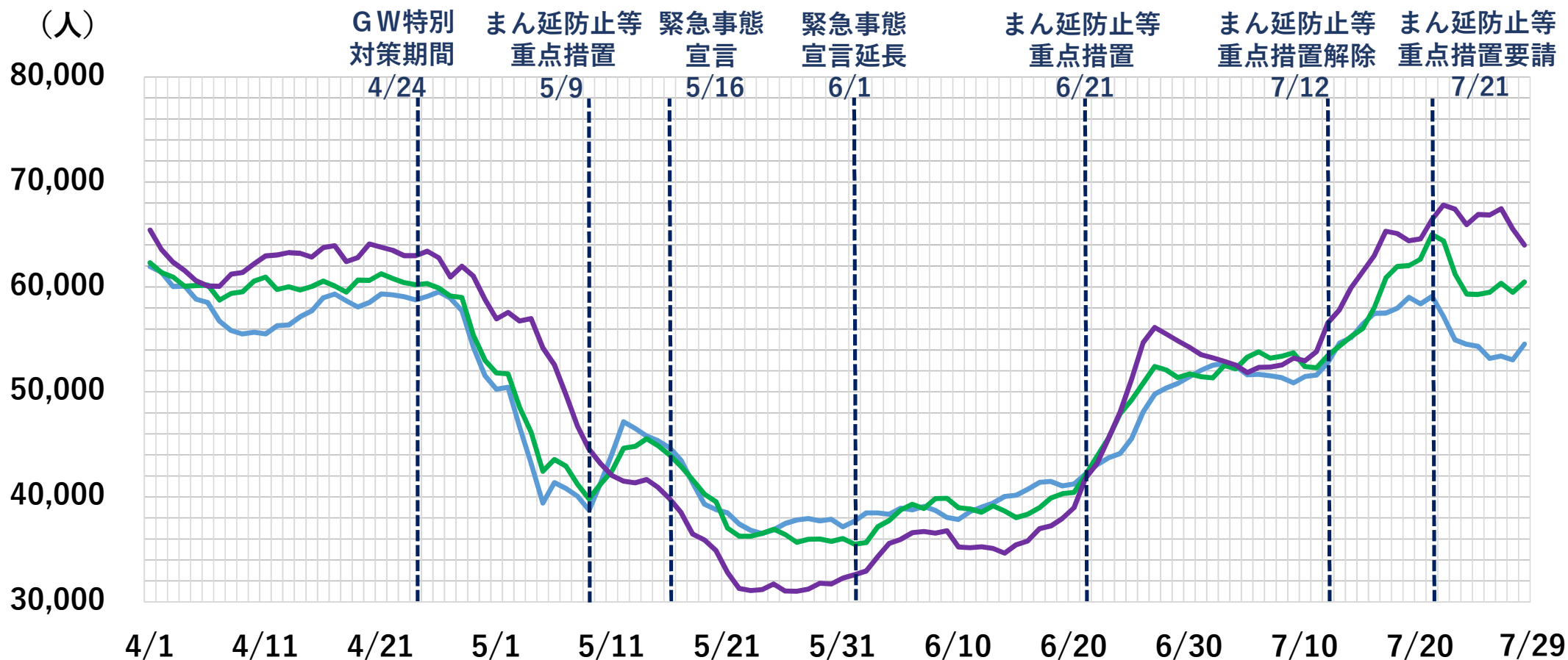


# 市内中心部の人出（午後8時、7日間平均）

札幌駅

大通駅

すすきの駅



※Agoop社提供データを元に作成

# 第5波に向けた保健所の体制強化

第4波を踏まえ、急速な感染拡大に対応するため、保健所の体制強化を図る。

## 全庁応援体制

### 緊急応援職員の派遣

- ・最大1,000名程度の体制を準備
- ・第4波を踏まえ、各班の業務量をレベル化し、適切なタイミングで必要な応援職員を配置する。

### 「区新型コロナウイルス感染症対策室」業務再開

第4波終息時点で保健所に集約した業務の一部を、各区でも実施する。

#### ●健康観察

自宅療養中の方の病状の変化を逃さずキャッチし、必要な時に確実に医療につなげる。  
→8月上旬を目途に業務開始予定

#### ●患者調査

患者からの聞き取り調査を丁寧に行い、濃厚接触者を確実に把握する。  
→一定の陽性者数が見込まれる時点で稼働開始予定

**市役所職員が一丸となって感染対策に取り組み、  
市民の生命・健康を守ることに最大限注力する**

# 市民への協力依頼（令和3年8月2日～31日）

**全庁応援体制を敷くことに伴い、市民の皆様にもご協力をお願いします。**

- ・市役所職員が一丸となって感染対策業務に従事するため、市役所や区役所、市税事務所等における対応職員が少なくなり、対応にお時間をいただく場面が多くなる。
- ・人の流れをもう一段抑制するためにも、可能な限り来庁によらない手続きを活用するなど、市役所及び区役所、市税事務所等への不急の来庁はお控えいただきたい。

※電話による相談、郵送による各種申請・請求 など

# 第5波における医療提供体制について

資料 1

令和3年7月31日  
保健福祉局保健所

- 第4波では、入院患者の急増により、自宅や施設等で入院待機を余儀なくされた方がピーク時に300人以上
- 第5波の現在は**ワクチン接種の効果**により入院患者の平均年齢が46歳（第3波：68歳）と**低年齢化が進んでいる**
- ワクチン未接種の**比較的若い世代への対策**が求められる（高齢者は少なく、若い世代の陽性患者が大半を占める）

## 【第5波における医療提供体制の方向性について】

### ①**宿泊療養、自宅療養などの体制の強化【無症状・軽症】**

- 自宅療養者に対するオンライン・電話診療、往診、訪問看護の**体制強化**
- 外来診療機能を有する第2入院待機ステーションの運用

### ②**受入医療機関の役割分担による効率的な病床活用**

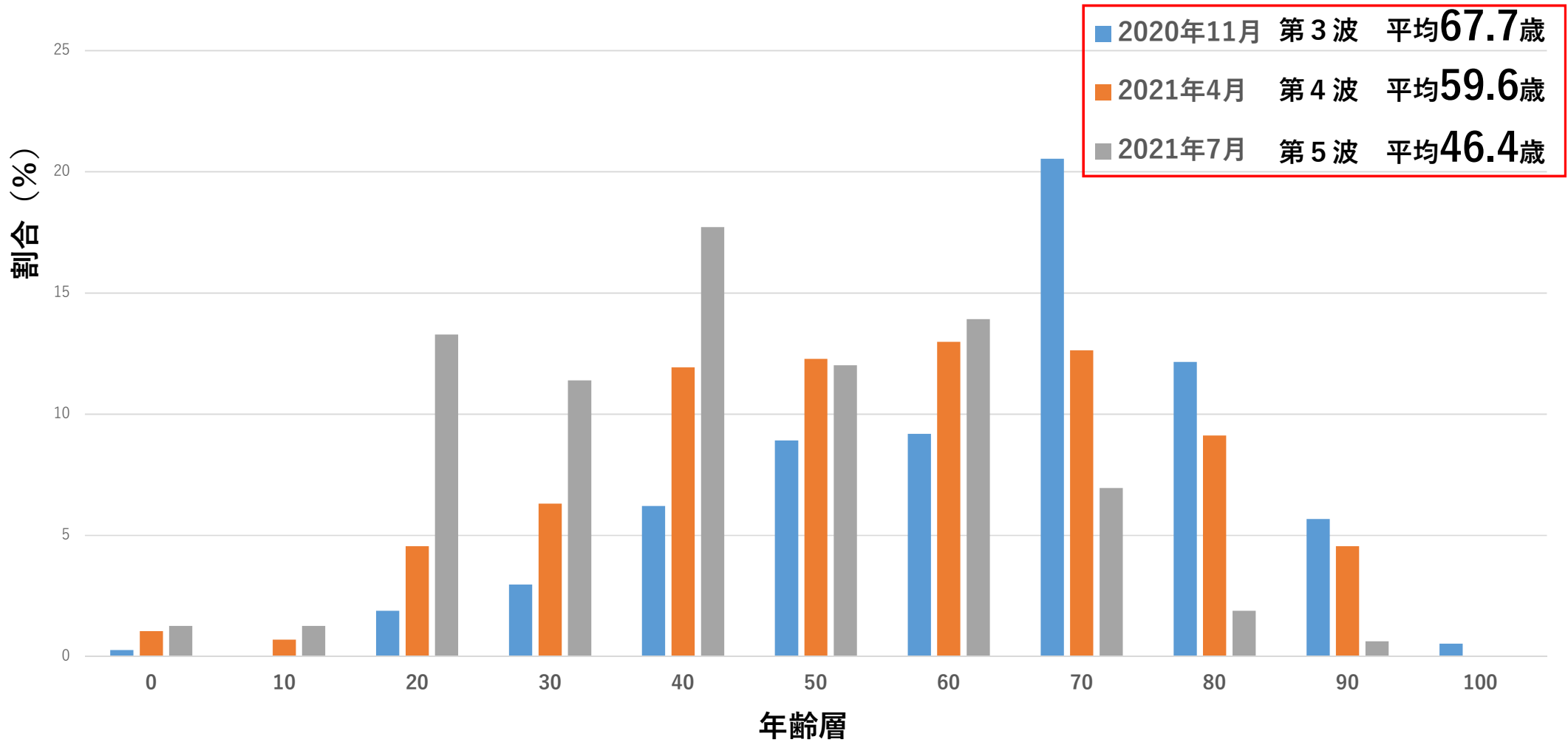
- 新型コロナウイルス感染症の重症度による受入先調整の継続
- 入院受入における**機能分化**（要介護、透析、妊婦・小児等）と**役割分担**

### ③**入院受入医療機関の受入病床の確保状況**

- 入院受入確保病床数（7/29）：603床
- 実質受入可能病床数（7/29）：**557床**

# 患者増加時期における入院調整患者の年齢分布

資料 2



# 第5波における医療提供体制の役割分担の明確化

資料 3

第5波の傾向として、コロナワクチン接種の効果により、若い世代をはじめとする陽性患者（無症状、軽症を含む）が患者の多数を占めることが想定され、従来の重症化した高齢者への対応から若い世代への対策へとシフトが求められる。

## 宿泊療養・自宅療養

自宅療養者に対する**オンライン・電話診療**のほか**往診、訪問看護**などの**体制の強化**を進める。

無症状・軽症

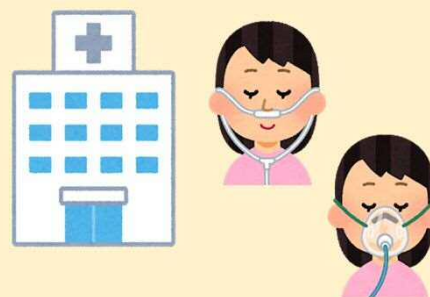


酸素投与の必要がない患者

## 重点医療機関等

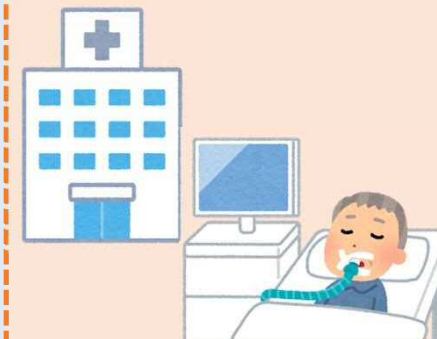
**機能分化**（要介護、透析、妊婦・小児等）を進めることで、**役割分担**を明確化し、**医療機関の負担軽減**につなげる。

中等症



酸素投与が必要な患者  
（人工呼吸器・ECMO以外）

重症



酸素投与が必要な患者  
（人工呼吸器・ECMO）